

(史料紹介)

「明治十四年 樺山資紀日記」

齋藤伸郎編

解題

1 樺山資紀について

明治の軍人・政治家樺山資紀(かばやま・すけのり)は、天保八年(一八三八)十一月十二日、薩摩国鹿児島城下(現在の鹿児島市)に薩摩藩士橋口与三次の三男として生まれた。幼名は格之進、樺山家の継子となり、樺山資紀となる。薩英戦争・戊辰戦争に従軍し、維新後は陸軍省に入り、明治五年に熊本鎮台に配属となった。

配属直後、台湾に漂流漂着した琉球漁民が虐殺される事件が起こった。樺山はこれに関係し、台湾・清国に出張し視察した。以後、軍人として、東アジア外交に継続して関わる特別な存在となった。明治六年の台湾出兵にも従軍、この時期にマラリアに罹患し持病となったようだ。明治八年、朝鮮との外交紛争である江華島事件では弁理公使黒田清隆に随行した。

明治十年、勃発した西南戦争では、谷干城の指揮する熊本籠城戦に参謀長として参加。樺山は薩軍に寝返るとさ

え噂されたが、西郷軍の攻勢に屈しなかった。谷とは台湾出征にも共に参加していて、親交が深かったようである。

明治十三年には、陸軍籍のまま、警察の長、大警視となった。警察は、創始者の川路利良が薩人（明治十二年逝去）で、配下も鹿児島県人が多かったため、統御しやすいと思われたのだろう。翌十四年、警視庁に改組、警視総監となり、首都の治安を握った。

明治十六年には、海軍に移り、海軍卿川村純義の次官（大輔）となった。明治十八年十二月、内閣制度が成立、海軍省の長には西郷従道が就任したが樺山は引き続き次官として支えた。同年、爵位制度が成立し、樺山は子爵となった。佐々木隆は、樺山・高島鞆之助らを薩摩の「子爵級実力者」と呼び、黒田・西郷・松方・大山巖に次ぐ存在と比定している。

明治二十三年、第一次山県有朋内閣において、西郷が内務大臣に移り、樺山が海軍大臣となった。続く第一次松方内閣でも留任、藩閥政府と民党が対峙する「初期議会」と呼ばれる体制下、樺山は「蛮勇演説」と呼ばれる薩長支配肯定の演説を行い有名となった。

第一次松方内閣崩壊と共に枢密顧問官となるが、明治二十八年勃発した日清戦争では現役復帰、海軍軍令部長として海軍の作戦指導を行った。二八年、日清戦後日本領となった台湾の総督になり駐屯、現地に対抗と戦った。

明治二十九年、第二次松方内閣の内相、この時期の内閣交代の際には首相の噂もあったらしい。

明治三十一年の第二次山県内閣の文部大臣を最後に第一線を退き、明治三十七年に枢密顧問官に再任、逝去までその地位にあった。大正十一年二月八日死去、享年八六歳、日清戦争の功により伯爵に陞爵している。

伝記としては樺山愛輔「父、樺山資紀」（私家版、一九五四年、一九八八年大空社復刻）、大沢夏吉「西郷都督と樺山総督」（記念出版委員会、一九三四年）、藤崎済之助「台湾史と樺山大将」（国史刊行会、一九二五年）後者二点は近年クレス出版から復刻された。論文としては落合莞爾「偽史 高島鞆之助と樺山資紀」（『月刊日本』、二〇〇八年）、白洲正子「祖父・樺山資紀」（『芸術新潮』四二、一九九一年）がある。

2 明治十四年の樺山資紀の日記について

樺山資紀に関係する資料は、国立国会図書館憲政資料室に多く納められている。「樺山資紀関係文書」（その1）（その2）（その3）、資紀長男の「樺山愛輔関係文書」、資紀・愛輔を包括した「樺山家関係文書」である。憲政資料室のホームページにはそれぞれの解説があり、資紀文書（その1）（その3）・樺山家文書の目録も掲載されている。

日記は、樺山資紀関係文書（その1）書類の部に数種類収録されている。

筆者が確認したものは、268「日記墨書」（以下Aと呼称）、整理番号299～320「箱入り手帳ノ分 樺山資紀日記 自筆本」（以下B）、整理番号269（以下C）である。整理番号266・267・272も日記らしいが筆者は確認していない。

樺山資紀の日記は、明治十四年の一部が大久保利謙の論文「明治十四年の政変」²により翻刻・紹介され「政変の研究に新地平を開いた」³と高く評価されている。また、前記「父、樺山資紀」にも多数引用されている。

今回、紹介するのは、初出となる明治十四年の全文である。明治十四年の時期における残された資料の相互関係

は、Bが原本で6 cm×13 cmの野線なしの手帳である。見開き横づかいに鉛筆で細かくびっしりと記載され文字はとも解読しづらい。明治十四年のものは資料番号310と311、二冊に渡っていて、311には黒色の革製表紙が残っているが、310で痛みが激しく表紙が外れている。そのため、筆者は外観のみ確認させていただいた。310はマイクロフィルム撮影・公開されているが、マイクロでは判読できない部分も多かった。311は撮影されておらず、筆者は自弁でマイクロ撮影させていただいた。

Aは樺山家によるBの翻刻で268の三、四が対象時期となる。CはAを元にしたタイプ版で、269のイの7及び8が対象時期である。Aは楷書であるが筆者にとっては解読が決して楽ではなかったので、タイプ版の存在はとても助かった。Cは本稿執筆時点(二〇一七年十月初旬)では、公開目録から外れており、近々に撮影され、マイクロ公開されるとのことである。今回の翻刻の底本はAを用いてCと校合し第一稿を作成、Bの判読可能部及び大久保論文を参考にして最終稿を作成した。

この時期の有力政治家の日記は少ない。刊行されているのは編纂物の佐佐木高行日記ぐらいで「明治十四年の政変」の研究にはそれが多用されている。筆者は同政変研究を長年行っており、今回翻刻はその一環として行った。今までに品川弥二郎(長州、内務省次官↓農商務省次官)と土方久元(土佐、宮内省第三席↓内務省次官)の日記翻刻を発表しており、樺山を併せ、薩長土の内務省系高官の日記が揃ったことになる。

樺山の日記には様々な人物が登場する。系図・政府組織・警察の人物図表を添付するので解読のガイドとして活用頂き、政変の年の樺山の活躍を読んでもいただければ幸いです。

凡例

一 掲載史料は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「樺山資紀関係文書（その1）」書類の部 整理番号268日記墨書」三・四、整理番号310・311「箱入り手帳ノ分 樺山資紀日記 自筆本」、整理番号269イ1・2の明治十四年の部分を翻刻したものである。

二 翻刻にあたっては、史料の原形をとどめるように留意したが、以下の点については改めた。

- ① 原文は、月日ごとに「一、同月」と記されているが、漢数字の月で始めるように改めた。
- ② 漢字は常用漢字を使用し、合字はㄱ・ㄷを除きひらき、変体仮名は現代仮名に改めた。
- ③ 月日単位で改行を排し追い込んだ。場所により左右・上下の順が異なる場合は文章に従って整えた。
- ④ 読みやすさのため句点・読点・並列点の追加を施した。
- ⑤ いくつかの表記が混在している同一人名は一般的なものに統一した。
- ⑥ 文字が判明しない場合は□を字数分挿入した。
- ⑦ 明らかな誤記は注記せず改めた。
- ⑧ 略語の説明を割注□で示した。
- ⑨ 二月二十日から三十日にかけての記載であるが、原本は痛みが激しく非公開、そのマイクロフィルムも不鮮明、写本も欠字が多かった。欠字が多く意味が通じない部分は文単位で略した。

三
翻刻は編者齋藤が慶應義塾福澤研究センター重田麻紀氏のご協力を得て行った。最終的な責任は齋藤が負うものである。

一月一日 陰或晴。

午前八時参内。勅任官井夫人拝賀了テ、九時青山御所参内。皇太后拝賀了テ、帰途、橋口殿へ祝賀、帰宿。本年、夫人ノ拝賀アリ。服装定制、官女ニ同シ。敦子殿、周旋ニテ年内調整ス。一般不調ヨリ、三分一夫人参内ス。化粧室等設置、女官為取繕出場スト雖トモ、姿勢服地等不整頓、寄談アリ。

一月二日 晴。

午前九時分永田町辺年賀巡回、十二時帰宿。

一月三日 晴。

午前十時分各国公使館等年賀巡回。午後再ヒ同断。

一月四日 晴。

出勤。午后三時分上局員集会。改革之主義、将来警察振起守成ノ方法等示論ス。了テ局長等、仮ニ内命ヲ下シ、課長・課僚等局員選挙ヲ概ネ決定シ、銘々担当責任ス。悉ク異論ナク奮発心顯出シ、稍安心セリ。食事饗応シ、統テ取調ニ着手ス。

一月五日 晴。

午前十一時新年宴会。今晚、大山殿饗応。

一月六日 晴。

午前八時山田殿へ赴キ、年内決議改革挙行ヲ来ル十三日ニ略期日ヲ立テ、続テ大山・西郷殿へ赴、協義ス。

一月七日 晴。

午前、内務省へ出頭。内務卿旅行先キ上総へ電報、及ヒ官吏派出ヲ品川少輔へ協義ス。又、一封ヲ飛ス。十日ニ出勤アランコトヲ報ス。又、司法省へ赴ク。

一月八日 晴。

午前十時陸軍始メ。日比谷へ出場ス。午后二時、有栖川宮並黒岡海軍少佐、航海ニテ、新橋へ大山殿同車送別ス。毎日局中ニテ、転任々官等取調ノコト併出勤セス。

一月九日 晴。

休日。本日モ同断、今晚田中等來客。

一月十日 晴。

午前九時内務卿、船橋今帰京、出勤スベキ報知。昨日到達ニ依リ同時出頭、少シ。遅刻ナルヨリ転官等上申書案ヲ西村書記官へ協義。取調中、卿モ出勤。夫是上申細縷ニ及フ。十二時食事シ、一時帰館、今晚松田知事招待饗応。

一月十一日 晴。

午前、司法省三好大書記官來館。第三課ノ者、司法省採用人名簿ヲ借用セラレタリ。一時、内務卿今被呼。又、政府ニ出頭、任官及ヒ萩警視補処分上等ノ廉ナリ。

一月十二日 晴。

午前九時、萩事廉書類ヲ山田殿へ送付ス。又、司法省採用難致奏任之者名簿ヲ大山殿へ送り、一時、憲兵附属ヲ請フ。又、警保局へ採用ノ人名其他、到底整頓セリ。

一月十三日 晴。

出局セス。午后三時、山田殿、參館。萩貞処分上ハ決定ナリシカ、已来ノ情実掛念ノ廉ナキヲ断定セリ。又愈、明十四日發令任官モ共ニ辭令ノ手順相立、退出セリト。又、兵器一応陸軍省ヘ引渡ノ内議ニ被及、此廉ハ今朝大山殿ヘ内議セシヲ以テ子細ナキ答弁シ、頓ニ安心セラレタリ続テ、退去、又、呼出アリ。

一月十四日 晴。

午前十時、内閣ヘ出頭ス。警視庁置カレシ達書ニ続テ警視總監被命、右大臣奉行セラル。奏任一等警視台五等警視迄同時任官式ハ、檢事・憲兵・内務省・警保局転任各拜命ス。了テ出庁。警察使・副警察使・方面監督・各区所・各課之局長ハ内務卿ヨリ拜命ス。十二時、右職員ヲ集合セシメ、本日、警察官廢興ノ主義政府發令ノ起因スル処態度ノ進歩ニ從ヒ、警察ノ愈々嚴ニシテ愈々緻密ニ赴キ、各其職務ニ奮發シ、人民安寧ヲ保タシメンコトヲ希望スト懇々告諭シ、又、方面監督ハ総長エ服從シ、部下ヲ平和ニシ、巡查ハ人民ニ直接ナルヨリ能ク注意スベキヲ示スベキヲ論シ解散ス。各其奮發ノ氣色顯出シ、稍安堵セリ。了テ各局・課長課僚等判任ハ庁内ニテ、辭令シ充分手順整頓セシヨリ混雜ヲ生セス。

一月十五日 晴。

午前九時出庁ス。次官欠員ナルヨリ、一層事務ニ注意ス。昨日、午后三字松方内務卿来庁。懇意ヲ表セラレタリ。憲兵部ヲ飯二庁内ニ設置依頼ニ預ル。三間陸軍六等出仕其他・出勤士官下士見込ノ警部補已上調べ着手ス。

一月十六日 晴。

休日。午前十時出庁。憲兵並巡查本部採用ノ警部ヲ催促ス。十二時退出。一時高田邸ヘ赴キ、五時橋口殿ニテ緩話。

一月十七日 晴。

午前九時出頭ス。警部三十一名過員ヲ生ス。因テ二百名、十名外ニ陸軍省へ採用アリ度ヲ以テ該省へ赴キ小沢少將へ内議シ、陸軍卿出勤ナキヲ以テ該宅へ赴キ、協議整テ帰庁ス。

一月十八日 晴。午后雨。

憲兵採用ノ警部人員調整、三間六等出仕、陸軍卿へ上申ス。明日午后一時、呼出アリシト既ニ警部分離済ノ上ハ、六百十名ノ過員巡查・憲兵見込並千名ノ特別巡査人名調ニ着手ス。午后九時ハ延遠館ニ於テ府知事招待夜会アリ。戯伎並洋人ノ舞アリ。十一時三十分帰宿。益満同道ス。集会凡七百人盛会ヲ極ム。

一月十九日 雪。

午后、各局長会議、實際施行上順席等議了リ。三時三十分帰館。警部補以上二百四十三名憲兵二入。

一月廿日 晴。

本日、檜垣元権少警視・染川・秋月一等警視補、陸軍省御用掛拜命。到底終局ニナル。高田邸道路修繕費、昨年二十三円余、義務出金ノ賞トシテ木盃一箇下賜アリ。

一月廿一日 陰、午后雨。

六時ハ山県殿、晚餐招待各鎮台司令官・陸軍卿ナリ。

一月廿二日 晴。

十二時半退出。米国へ信書差出ス。陸軍採用ノ巡查六百拾名内二百名ヲ当分採用シ、残ル四百拾名ハ俸給等費用ヲ陸軍省ハ償ヒ、従前巡查ニ服役ノ廉少シ。人員齟齬ノ事アリ、四時大山殿へ赴キ示談ス。食事ヲ進メラレ八時退去。

一月廿三日 晴。

休日。午前九時、大円寺墓參。続キ鳥津邸ヲ伺ヒ、十二時過帰宿。食事了テ、又、市ヶ谷辺年賀巡回五時帰館。
一月廿四日 陰。

午前九時、松村延勝來訪。馬匹十五頭譲与ヲ談ス。

一月廿五日 晴。

午前九時、野村忍介來訪。午后五時、川村純義殿招待渡辺県令並野津・野村等ナリ。

一月廿六日 晴。

午前一時、神田区松枝町、失火、両国中村樓延焼。本所深川吉永町ニテ消滅。西風猛烈消防隊等、其術ヲ失フ。尤、昨夜、品川並浅草出火引続キ疲勞セリ。余モ出場指揮シ、元町警察署巡檢シ、午后四時、帰館死者八名内三名溺死。両国橋内屯所並深川警察署類焼ス。其戸数九千余ナリ。実ニ財産烏有二婦ル。数多其子防為スンバ非ラサルナリ。即チ第一局長ニ命シ、神田区防御線法方ヲ為サシム。

一月廿七日 晴。

火災防御法租取調。明日、東京府へ協議ヲナス積ナリ。

一月廿八日 晴。

小野田ヲ監獄局へ採用致度ヲ内務卿ニ協議アリ。因テ午后四時、同邸ニ赴キ、目下會計其他、万般ノ事務ヲ担当セシムル際、必要ナルヲ以テ謝辞ス。又、国事探偵等ノ事ヲ議ス。

一月廿九日 晴。

十二時田中綱常、来庁同道。帰館食事了テ、渡辺鹿兒島県令ヲ訪フ。熱海温泉行ナリト名刺ヲ残ス。続テ芝山内

水交社ニ於テ遊戯。五時、野津招待ニ赴ク。山県・大山・三好其他将官等来会、社会ヲ極ム。

一月卅日 晴。

光明天皇御祭典、所勞ニテ不參。午前九時大山殿ニ赴キ、憲兵見込ノ者、交換云々示談ス。十二時高田邸ニ至リ遊戯。五時帰宿。

一月卅一日 晴。

午前十時、鹿兒島県士族有田通利来庁。言語不綴或ハ神經病者ナラン。尤、函館師範生徒ニテ黒田長官安田大書記官へ建白書持參。其文章、神職神文ノ如キ不了解ノ者ナルヨリ程能ク会釈シ、退去セシメ、直ニ小牧昌業へ照会ス。

二月一日 晴。

午後五時、三雲藤風ト来訪。始ント九カ年程経テ面会ス。此回神道會議ニ出京、鹿路島、福崎助七・井上右内同道ナリト。積年ノ快談数刻、今晚一泊。

二月二日 晴。

一昨日ノ有田ノ事由、略々分リ。元開拓使巡查ニテ、病氣辭職帰県スル者。愈、神經錯乱者ナリト同使之者、来庁ス。因テ函館ノ同袖ノ宮里新藏ナル者、取調中ナリト。併シ京橋屯所ニテ鹿兒島人瘋癲者取押へ、該室へ送致セリト、本人ナラン。午后三時高島少将来訪。又、開拓使迫田喜右衛門同断。

同三日 雨、近来稀ナル降雨。囚獄患者草木ノ潤トナラン。本日大坂表へ信書出ス。又、一昨日米國ノ信書到達。

二月四日 陰。

午后三時過、西郷氏ヲ訪フ、他出ナリ。谷干城氏ヲ訪ヒ、熊本守城紀念会及ヒ同氏令息婚禮、且ツ長崎梅ヶ崎埋葬地改葬失礼県庁疎漏ノ廉等示談ス。続イテ田中氏ヲ訪フ、他出故帰ル。

二月五日 晴。

十二時、田中氏來訪同道。勸工場巡視、銀座ニテランプ一対求メ、有馬純武ヲ訪ヒ同道。水交社ニ至ル。

二月六日 晴。

午后一時夕白銀射の会ニ赴キ、帰路小山ニテ川村・田中・遠武等遊戯。又、中井等來会。

二月七日 晴。

午前十時、内閣工出頭、任陸軍少将兼警視總監如故ト宣下拜命ス。因テ陸軍卿へ届ケ、又、參謀本部へ同断、出庁ス。午後一時内務省へ出頭ス。今夜、田中へ赴ク。

二月八日 晴。

午後四時夕橋口般・本多殿・千田氏、招待如觀祝宴ヲ催ス。

二月九日 晴。

午後一時夕越中島へ赴ク。米国人某ノ射術ヲ觀覽ス。銅錢或ハ茶碗球等、投飛スルヲ発射ス。十発二八九命中セリ。能其妻君ニ発射ス。竹ノ先キニ茶碗ヲ置キ、概ネ九間分發射ス。忽チ命中セリ。夫人スラ如斯感佩セリ山田・西郷・川村・大山其外、近衛鎮台学校等参集。四時帰宿ス。

二月十日 晴。

午后七時、独逸国公使分招待饗応。上野外務大輔・中井弘其他、外務官員ナリ。同国へ一昨年来、警視官派出ノ節、彼ノ警察官、誘導ノ懇切ナルヲ謝ス。

二月十一日 陰。

午前九時、独逸国公使館へ昨夜ノ佳招ヲ謝ス。高田邸へ赴キ、桐木植付ヲナサシム。紀元節不參。実ハ服装調整セサル故ナリ。午后五時帰館。食事ノ際、出火ノ半鐘ヲ報ス。北風烈シク、神田区ニ原因スルヨリ直ニ出場。松枝町今久松町田ヲ巡視、消防隊ヲ指揮ス。猛烈火消防ニ困シムト雖トモ至ル所、消滅ス。又、久松町辺今風候東風に變シ。幸ニシテ十二時鎮火ス。甚慘状ヲ極ム。

二月十二日 晴。

十二時退出ス。川上操六・西寛二郎來訪。緩話深更ニ及フ。尤、川上ハ仙台鎮台參謀長へ転任、過日出京。

二月十三日 晴。

宿醉、不快。小川町邸宅所望ノ者アリ、午后三時本多へ依頼、代償ヲ調ブ。橋口殿へ立寄り帰ル。

二月十四日 雨。

午后五時今湖月楼ニ於テ、高島・川上へ別杯ニ赴ク。西郷・仁礼其他佐官已上、十四・五名ナリ。

二月十五日 陰。

午前八時半田中司法卿へ赴キ、別府ヲ検事へ採用云々、又、兼三様御在勤場所云々等頼談ス。続テ大山殿へ赴キ、又、内務省へ出頭・出庁ス。近県警察官出京會議、面会ス。

二月十六日 雨。

午前九時高島少将大坂へ赴任ニ付、離別。

二月十七日 陰。

午後五時西郷殿招待饗応、同郷人ナリ。

二月十八日〔記載欠〕

二月十九日 午后雨。

三時橋口殿へ至リ、洋室飾装ヲ依頼ス。又、田中・同袖水交社ニテ遊戯。十二時ニ至ル。

二月廿日 晴。

十二時、勤工場ニ赴キ、陶器並梅花□□購ヒ帰ル。明日饗応ノ為メナリ。

二月廿一日 晴。

午后六時、グロース並ボアソナード、響察二両二名招待饗応食事。了テ七時三十分□□アリ号砲発声諸客退散。

直ニ宮内省へ天機伺ヒ出テ火□□奔走□□。

二月廿二日 晴。

午后五時、綿貫同袖築地寿み屋、熊本籠城紀念会ニ至ル。例ノ如ク社会。

二月廿三日 陰。

午后六時、大山殿・野津氏始メ同郷人十八名招待饗応セリ。

二月廿四日 陰、風。

午后退散シ野津氏へ至ル。有馬純一病死ノ報知アルニ依ル。〔略〕

二月廿五日 陰。

午前十時、〔略〕防火線并麴町・神田・日本橋・新橋・回送家屋等方法布達□□。一時了ル随分一大難事ナリ。

〔略〕

二月廿六日 陰。

防火線等ノ布達発令ス。十二時有馬純一送葬ニ至リ麴町々退去ス。警察費等地方税ノ廉内務省ニ於テ府知事卜内議アリ。余カ代理ニ佐和警視出省ス。

二月廿七日 陰。

二月廿八日 雨。

三月一日 陰。

午前七時十分参内。博覧会開場式上野行幸、八時御出門。九時三十分着御。大臣・参議、各国公使等拝謁。十時三十分還御供奉、十二時三十分帰館。

三月二日 陰。

午前九時、松方殿へ赴ク。過員巡查事件ナリ。又、陸軍省へ同断。

三月三日 陰。

午前、過員巡查給与事件、松方へ上申。午后一時、各局長会議、毎週金曜日会議スベキヲ達ス。午后五時、橋口殿へ本田へ赴キ、同氏別離宴会也。

三月四日 陰。

出庁セズ。十二時三十五分、新橋停車場へ出場。布哇国帝入京、拝謁。直ニ参内アリ。余等供奉セス、帰館ス。田中来客。昨夜来、少シ腹痛アリ。米国今来翰、直右衛門写真ヲ送り文蔵新聞同断。

三月五日 雪。

休日。午前々腹痛快シ。六時三十五分、延遠館ニ於テ、布哇国帝陪食ニ招待。

三月六日 雨。

腹痛下痢故出勤セズ。

三月七日 雪。

同断。

三月八日

同断。

三月九日 晴。

本日夕出勤

三月十日 陰。

午後一時会議、警察署区域等決定。

三月十一日 陰。

午後三時夕芝山内へ赴ク。

三月十二日 陰。

午後一時川崎祐名ヲ訪ヒ、故野津中将建碑云々示談シ、大山殿へ赴キ、又、川上操六仙台へ赴任ニ付、同氏ヲ訪フ。今朝出発セリト、橋口殿へ至リ去九日貞助殿祭日ナレドモ病氣故、旁伺フ。午後六時田中氏示談ノ趣アルニ依リ、帰館ヲ請ハレ帰ル。海軍卿失策、艦長等不服ノ廉ナリ。益満氏來客一泊。

三月十三日

休日。午前八木信安來訪、緩話。午後一時綿貫へ赴キ、徳大寺実則へ託書・廻送・探偵示談ス。川村殿、病床ナ

ルヨリ見舞。遠武・末川・福島・高木来会。別席ニテ、海軍省葛藤云々示談シ帰ル。今晚、田中氏へ赴キ、伊地知氏来会。緩話。

三月十四日 雨。

一書ヲ千田貞暁へ郵送ス。午後五時、三雲藤一郎来訪、緩話。神道會議了テ、明後十六日出発、帰県スト。

三月十五日 晴或陰。

去十二日、魯国皇帝觀兵式帰路、兇者破裂彈ヲ馬車内へ抛込ミ負傷。時午后二時ナリト宮中へ帰り、三時死去ノ凶報。同国公使館並在留公使今電報、昨日到達。因テ今夜延遠館ノ夜会取止メノ段、昨日、接伴掛今通知セリ。

三月十六日 晴。

十一時退出。十二時三十分、布哇国帝御出发、奉送新橋停車場出場。一時十分、延遠館今御着車、直ニ汽車ニテ御出发、郵便舟今上海へ御発艦ノ門。二時三十分、乗馬ニテ高田邸へ赴キ遊獵ス。六時帰館。

三月十七日 晴。

午前十時三十分、政府へ出頭、定額事件、大隈参議へ内議ス。又、内務省へ立寄同断。

三月十八日 晴。

米国へ信書郵送。十一時出庁、局長欠席ニ依リ、午后一時會議取止ム。大山殿赴ク。又、益満氏へ同断、皆他出ナリ。

三月十九日 晴。

十二時退出。

三月廿日 晴。

午前九時綿貫同車。博覧会ニ赴キ、監獄工業物品等縦覧ス。十二時、精養軒ニテ食事。午后四時退去。本日八晴。殊ニ軍楽隊奏樂一層壯觀ナリ。監獄署出品モ器物等精工、過半約条済トナル。

三月廿一日 雨。

三月廿二日 同断。

三月廿三日 陰。

午后大山殿ヲ訪フ。他出ナリ。又、橋口殿ヲ伴ヒ、村田経芳ヲ訪ヒ帰宿。

三月廿四日

米国ノ信書調到達皆壮健。

三月廿五日 晴。

三月廿六日 陰。

十二時退出、田中来訪。食事了テ水交社へ赴ク。

三月廿七日 晴。

休日、午后一時高田邸へ赴ク。梅木二百本ヲ田中氏ニ配分。本日、植付ケ且ツ遊獵、六時過帰宿、午後陰風。

三月廿八日 晴。

午后一時より各警察使會議ヲ起ス。毎週月曜日ヲ以テ會議定則トス。四時會議中陸軍卿來館ニ付、帰宅。谷中將云々ノ廉ナリ。

三月廿九日 晴。

午后四時、藤島正健所ニテ剣会。国行ノ名刀ヲ見ル。西郷・大山來会、又、佐野常民・土方・米田・吉原來会

ス。午前十時宮中、高倉典待ノ部屋床下へ怪火ヲ生ス。僅ニシテ消滅。女中二名嫌疑ノ廉ナリ二局へ拘引、取調ニ着手ス危殆ナリ。

三月卅日 晴或陰。

午前相良來訪。又、川上佐七、帰県スト同断。

三月卅一日 陰。

十二時退出ス。故鮫島清藏祭典、午后三時、参向ノ積ナレドモ神田辺出火ニテ出場ス。

四月一日 晴

午前九時、故鮫島氏ヲ訪ヒ、昨日、祭典会セサルヲ断ル。兄弟二面会、且ツ神靈ヲ拝シ、帰ル。川村殿へ赴キ綏話。午后一時出勤ス。

四月二日 晴

十二時退出。

四月三日 晴

休日。午后一時、岸良氏ヲ訪フ他出ナリ。本田・橋口殿へ至リ、又、谷干城殿ニ赴キ、長崎事件等面会ノ際、出火ニテ退去。又、益満・村田同道、西郷殿へ赴ク。西氏、別杯ナリ。刀剣監偵ヲナス。

四月四日 晴

午前十一時、内務卿ヨリ招ラル。長崎県処分上ノ件ナリ。午后一時、各局長会議、三時過帰館。田中ヲ招キ、右同事廉ヲ議ス。

同五日 陰。

春期、皇靈祭。午前九時三十分参内。午後一時田中へ赴キ同道、川村殿へ至ル。谷元・西、来会。帰路、水交社へ寄ル。

四月六日 雨。

感冒ニテ出勤セス。西氏、別杯会ヲ断ル。

四月七日 晴。

四月八日 晴。

午后二時、黒木為楨妻病死、葬送ニ赴キ、帰路、岸良氏ヲ訪ヒ、兼三様大坂御在勤云々、頼託ス。四時、大山殿へ赴ク。西氏別杯ナリ。刀剣監偵アリ。

四月九日 晴。

高田邸庭石窃盜、警察使、報知アリ。午後直二一郎等点検セシメシニ果シテ形跡アリ。

四月十日 晴。

休日。午前九時、高田邸へ赴ク。窃取ノ庭石、地守ヲ取調シニ、子善藏ノ所為ナル明瞭ナリ。因テ兩名共拘引ス。午後二時田中氏へ赴ク。仁礼氏等来客、六時帰ル。

四月十一日 晴。

午前、綿貫氏へ頼託、地守父子ヲ赤坂警察署へ送ル。

四月十二日 陰。

午後四時、西氏へ別杯。剣会相催ス。西郷・大山・今村。本阿弥氏等九名ナリ。

四月十三日 陰。

午前九時西氏、広島出發ニ付、同氏ヲ訪ヒ出動。午後微雨。六時ハ大隈氏觀花招待ニ赴。

四月十四日〔記載欠〕

四月十五日 晴。

午前、冷氣ヲ生シ、床臥。午後、發熱、恰モ台湾風土病ノ如シ。本日ハ引入ル。尤本日ハ佐和氏招待ヲ受ケケシニ相断ル。午後松方氏來訪、地方稅減少ノ件ナリ。

〔十六、廿三日、記載欠〕

四月廿四日 休日、晴。

向ヶ岡、射的會。午前十時ハ出場。本日始テ外出ス。十日間、引入ル。

四月廿五日 陰。

本日ハ出勤。此間、西園寺氏、自由新聞社長退社ノコト、綿貫ヲ以テ屢々大臣へ上申ス。午後二時ハ小梅水戸邸へ山口侍從長ハ招待。同家烈公等帶用其他刀劍三十腰程監偵、大凡命中セリ。九時退出ス。西郷・米田・今村・益満・本阿弥等ナリ。桜花モ殘花ナレドモ、觀客雜踏セリ。本日、警察使會議ニハ出頭セス。

四月廿六日 陰。

午後一時退出。三時、吹上禁苑觀花ニ赴ク。聖上皇后臨御。外国公使並勅任官陪覽立食頂戴、降雨ニ際シ、甚遺憾。

四月廿七日 陰。

午後三時ハ高田邸へ赴キ六時帰館。九時、独逸公使館夜會。十一時退出ス。皇帝辰誕祝宴、此間、招待アリタレ

ドモ、魯国皇帝変死、凶報ニテ猶予セラレタリ。洋人舞樂盛ナリ。

四月廿八日 微雨。

午後四時、西郷・大山・中井等同道、向島小室某所へ刀剣監偵ニ赴ク。大和包永ノ名刀アリ。外尋常ナリ。十時
帰館ス。

四月廿九日 陰。

午前八時岩倉殿へ赴ク、他出ナリ。西郷氏へ同断。西園寺、事件討論、検事着。手順序ヲ失シ、又、政府、輕卒
ニ涉リシヲ責ム。十一時三十分出庁。

四月卅日 晴。

午前八時、岩倉殿へ至リ、昨日ノ事件意見ヲ具陳ス。午後四時、松方氏へ同断。緩話六時帰館。午後一時、各局
長会議。

五月一日 晴。

休日、退省。閑散□□軒ニテ夕食ス。

五月二日 微雨。

午前十時、番町へ立寄、高田邸へ赴ク。番町両家ヲ招キ、鹿兒島壽シヲ馳走ス。益満氏同断。

五月三日 微雨。

大阪へ書翰ヲ出ス。

五月四日

警察費等地方税、今晚、始テ常置委員會議起ル。主任小野田警視官、番外トナリ答弁ス。

五月五日 微雨。

午後一時、内務卿へ出頭。地方税十三、四万円節減ノ動議ニ依リ、意見ヲ縷陳シ、一步退テ、余地ヲ委員ニ与ルヲ政略上ノ得策トス。四、五万円ヲ減スルニ及フ。今晚田中へ招待ス

五月六日 雨。

招魂祭不參。休日。午后三時分紅葉館ニテ小野某会主刀劍会アリ。数輩出席。

五月七日 陰、風。

十二時退出。田中司法卿、午食ニ招待セラル。皆、裁判官連中ナリ。

五月八日 晴。

休日。午前拾時、松方殿来館。明晩、警察費、常置委員會議ヲ猶予スルニ決シ、又、警衛巡查ノ費用、終身懲役ニ掛ル費用、国庫支弁云々等談ス。午後分高田邸ニ於テ、同郷武官四十名程親睦会アリ。琵琶引、西氏来会、社会ナリ。

五月九日 陰。

四ノ橋、島津殿邸へ御幸。犬追者并角力天覧アリ。午前七時分出場シ、午後三時退去ス。此志島・益満同車ニテ帰ル。

五月十日

米国分信書・新聞紙等、到達ス。

五月十一日 陰

午後四時橋口殿ニ至リ。夫ハ海江田信義牡丹見招待ニ依リ赴ク。伊藤・大隈・山田・黒田・松方等来会。

五月十二日 晴。

午後四時永山武四郎ヲ訪ヒ、又、田中へ至リ同道、水交社ニテ遊戯。

五月十三日 晴。

午前、ボアソナード来庁。過日ハグロース応接ノ一札ヲ述べ、来ル十五日食事ヲ約ス。本日ハ高田邸製茶ヲ始ム。

五月十四日 晴。

十二時、故大久保利通殿祭典。午食ニ至ル。又、岸良氏ニ至リ、黒田清兼検事希望ヲ頼談シ、橋口殿へ為替券ヲ渡シ、黒田殿ヲ訪ヒ、黒木氏同断、帰宿ス、昨夜、消防隊ノ動議起リ取調ニ掛ル。

五月十五日 陰。

休日、十二時、ボアソナード午餐招待ニ赴ク。松田知事並仏人来会。三時退去。上野博覧会ニ至リ動物ヲ見ル。牛馬価格賈シ。開拓使、鹿兒島産ニ良馬アリ。

五月十六日 晴或ハ陰。

午後四時西郷氏ヲ訪ヒ、国会意見等質議、六時退去。大野義行、懲役特典ノ廉ニテ叔父義方来庁。

五月十七日 晴。

退出後、乗馬。大山氏ヲ訪フ。

五月十八日 晴。

午後、司法卿へ面晤、黒田清兼検事申立云々ナリ。

五月十九日 晴。

午前、大審院へ至り岸良氏ニ面会。黒田ノ事ヲ談ス。

五月廿日

府会議、本日午后開会。小野田四等警視番外トナリ出会。

五月廿一日 晴。

グロース午餐ニ招待、家内同行。大山・町田・其他私人会食、三時退去、五時分水交社へ赴キ、田中出会ス。

五月廿二日 晴。

休日。午前九時分高田邸へ赴ク。

五月廿三日 晴。

午前、内務省へ出頭。皇居消防隊ノ廉、具申ス。午后四時福地源一郎宅へ招待。刀劍監偵アリ。吉井・西郷・大

山・中井・伊集院・益満ナリ。監定命中セリ。

五月廿四日 雨。

五月廿五日 晴。

各屯所並外来人撃剣会ヲ催ス。十二時より出場ス。海江田信義モ来庁。海陸軍人多少同断。五時過了テ、海江田・田中・益満同行、帰宿食事ス。故有志勤王家等ノ快話ニ数刻ヲ移ス。

五月廿六日〔記載欠〕

五月二十七日 晴。

上申書ヲ直ニ渡ス。松方氏午餐饗応アリ。内務省書記官長等ナリ。石井同車、水交社へ赴キ、又、大山氏へ同

断、千田貞暁、広島へ出京ニ付、訪フ。他出ナリ因テ帰ル。

五月二十八日 晴

私擬憲法案並探偵書ヲ松方氏へ送ル。午後一時、戸山競馬ニ赴ク。帰路、益満ニ立寄り食事シテ帰ル。盛会ニ非ス。

五月廿九日 陰。

主上、戸山競馬行幸アリ。十二時千田兄弟並番町両家招待鹿兒島すしヲ饗応ス。

五月卅日 晴。

五月卅一日 晴。

六月一日 晴。

域島等来訪。

六月二日 晴。

午後三時中田・城島等来客ス。尤城島近日大阪へ赴キ関西貿易商社へ加入ノ事、五代等要求ス。

六月三日 晴。

金曜日、各警察使会議日ナレドモ場所差支ニテ、出会止ム。

六月四日 晴。

本庁分捕刀剣ヲ十五腰供覧ス。名刀少シ。午後川村氏ヲ訪フ。他出ナリ。

六月五日 陰。

休日。午後高田邸へ至ル。

六月六日 雨。

午前松方氏ヲ訪ヒ、長崎県改葬事件処分等談話ス。午後、西郷・大山両氏ヲ訪フ。他出ナリ。橋口殿へ赴キ、七時帰ル。

六月七日 雨。

午前田中来訪。改葬事件談話ス。

六月八日 晴。

午前八時川村氏ヲ訪フ。他出ナリ。大山氏ニ至ル。伊地知正治家屋破壊等奇事ヲ談話ニ及フ。午後七時、松方・大山・土方・玉乃並グロース・ボアソナード氏等招待晚餐ヲ進ス。

六月九日 陰。

午前、千田へ赴キ、伊地知正治精神疾病アルニ依リ、見舞ノ事ヲ託ス。昨日、坂元純熙又来リテ此事ニ及フ。十二時ヨリ海江田信義・益満同車、本所ニ於テ巡查撃剣ヲ見ル。益満演習ス。了テ宮内へ立寄、帰車ス。

六月十日 雨。

午後一時二十分前、参内一時御出門、博覧会賞牌並賞状授与式举行。四時了テ、五時三十分還御供奉ス。依テ、各省休暇。

六月十一日 晴或陰。

十二時退出ス。四時、千田へ赴キ、橋口殿へ赴キ帰ル。米国台書信到達ス。

六月十二日 雨。

休日。午前、吉井友実ヲ訪ヒ、伊地知ノ事ヲ談ス。又、黒田清綱来会。該家執事並辞表ノ事ナリ。夫ハ伊地知氏ヲ訪ヒ、例ノ如ク飲酒中、待遇最好シ。加藤清正城門破壊ノ機械ヲ伝授セント、是則合伝流ナリト、其他談話、十一時過ニ至ル。平素外ニ変態ナシト雖トモ、稍酒乱ノ気味ナキニシモ非ス。空腹酩酊スルヨリ帰ル。又、原田宗助並該入婿ニ面晤、宜シク注意アルヘキヲ談ス。帰宿。午後寄食スル。坂元仙次郎ヲ当分ノ内、該家執事ニ差出ス。細事原田ヘ添書ス。四時ハ乗馬ニテ、田中ヲ訪ヒ、又、大山氏ヲ訪ヒ帰ル。同氏邸内ニテ馬逸走シ落馬ス。独リ乘リニ困却セリ。

六月十三日 晴。

過八日、政府ヘ建白セシ新潟県長岡・赤沢常容自首ス。自刃スル得ス。此時機ニ至ル、実ニ氣節ナキカ如シ歎スヘシ。

六月十四日 陰、風。

午前十時、永山新潟県令出頭、赤沢事件ヲ談ス。御巡行御用掛拝命ス。

六月十五日 陰、風。

六月十六日 雨、陰。

午前八時御巡行掛会議。十一時ハ向島ヘ赴キ、海軍競舟并水雷ヲ見ル。五時ヨリ川村・田中・末川同舟小蒸氣ニテ、海軍省ヘ上陸。三田小山ヘ赴キ、十一時退去。魯国レンフスキ、本日出発。

六月十七日 雨。

午前、松方氏ヘ赴キ、御巡行県ニ視察ヲ談ス。午後一時ハ各警察使會議、副統監其他転任免発令ニナル。午後四時ハ伊地知正治ヘ赴ク。吉井・伊地知壯之丞・本田・三島・安藤来会。本人亡母祭日ニテ招待、土蔵中ノ宴会、芸

妓ヲ招キ、近來ノ奇談ナルベシ。

六月十八日 雨。

十二時三十分、博覽會美術館堂上ニテ、総裁宴会。各国公使并大臣・參議・卿・輔ナリ

六月十九日 晴休日。

午前、岸良氏ヲ訪フ病床ナリ。親父殿面會。了テ黒田清兼氏訪ヒ、又、三島通庸ヲ訪ヒ、帰宿。山島遠乘ヲ試ル。何モ故障ナシ。

六月廿日 雨。

午後、有馬精一來訪。

六月廿一日 陰。

判任官巡查供奉ヲ命ス。

六月廿二日 晴。

午前九時、御巡行御用掛會議、御巡路等概決ス。又供奉ヲ更ニ命セラル。十二時出庁ス。副島種臣へ郵書披封事件ヲ宮内卿ニ示談アリ。赤沢常容帰県ノ報知アリ。午後七時半、大木喬任晚餐招待。

六月廿三日 晴。

六月廿四日 陰。

午前八時大木氏ヲ訪ヒ、名刺ヲ以テ一昨夜ノ饗応ヲ謝ス。吉井殿へ赴キ、伊地知正治ノ事ヲ談ス。十一時退出、米國へ信書ヲ出ス。午後三時中田同道。谷干城ヲ訪ヒ、緩話。六時水交社へ赴ク。

六月廿五日 雨。

十一時仁礼氏ヲ訪フ、退出ナシ、児玉氏ヲ訪、帰ル。今晚、黒田兄弟・本田・永山・与倉等ヲ招キ、千田へ別杯ス。

六月廿六日 陰、休日。

十一時仁礼氏ハ招カレ、すしヲ給へ、勸業競馬ニ赴ク。天覧幸行アリ。川村・野津・拙者拜謁。洋酒ヲ給フ。

六月廿七日 雨。

午後橋口殿ヲ訪ヒ、千田出會、同道。黒木氏へ赴キ、別杯アリ。三島・上村両氏來客。

六月廿八日 雨。

午後千田へ赴ク。明日出發駕筈。午前六時、安藤來訪、伊地知事件ナリ。九時、本田氏ニ至リ、尚、同事ヲ談シ、川村氏ニ至リ同斷。

六月廿九日 晴。

十一時退出。児玉利國來客。午後二時ハ高田邸へ同行、六時帰ル。今晚三河屋ニテ、大迫氏招待食事ス。比志島・田中来會。

六月卅日 晴。

七月一日 陰。

午後大山氏ハ村田氏へ至リ、射的銃チエンセストルノ彈ヲ借用ス。

七月二日 陰。

午後向ヶ岡へ至リ、川村氏より借用ノ射的銃ヲ試檢ス。村田來會ス。能ク命中セリ。

七月三日 雨。

向ヶ岡射の会不參。午後、田中来訪、明日出發スト。依テ又同氏へ至ル。仁礼・伊地知等來会ス。

七月四日 晴。

田中出發ス。長崎改葬事件ナリ。

七月五日〜六日〔記載欠〕

七月七日 陰。

七月八日 晴。

米國へ信書ヲ出ス。午後三時、内務卿ハ被呼、守衛巡查經費事件ナリ。午後六時上野精養軒ニ於テ、本庁奏任官已上大宴会ヲ催ス、憲兵長三間并警保局監獄局長招待ス。田辺ハ不參。

七月九日 晴。

十二時三十分、又上野精養軒へ土方氏招待アリ。韓人三名内務・陸軍卿等ナリ。帰路、博覽会殘品を見テ帰ル。午前十時御巡行掛へ出席ス、杉不着。

七月十日 晴。

午前、伊地知正治へ差遣置シ坂元仙太郎來ル。正広ノ刀ヲ正治ハ送ラル、因テ熊本城ノ鉄釘二本ヲ返礼ス。四日比合禁酒治療快方ノ由、大幸ナリ。午後二時、野津ノ別荘、四ツ谷ニテ郷友会ニ赴ク。琵琶ノ調彈アリ。海軍ヨリ仁礼・松村・井上來会ス。春秋兩度ハ陸海軍大会ヲ談ス。六時退去。

七月十一日 晴。

午前十時御巡行掛へ出席。杉・児玉昨日帰着、出席。未夕御發聲時日分ラス。今朝、大山綱昌、仏國ハ帰朝セリ

ト来訪ス。因テ帰路、陸軍省へ至リ、憲兵大尉採用ヲ談ス。

七月十二日 晴。

午前八時水上屯所へ至リ、小蒸気舟ニテ両国下流ニ至ル。水防組出初メ式挙行点検、十二時帰邸ス。米園シ信書到達ス。

七月十三日 雨。

午后、川村氏へ至ル他出ナリ。田中氏ヲ訪ヒ帰ル。

七月十四日 晴。

十二時シ撃剣演習アリ。海江田信義並坂元・益満、憲兵士官等来観。大久保某鎌術並両刀仕用等盛会ナリ。五時了テ、海江田等来客食事ス。午前三時比、橋口殿へ盗難衣類十六品余ヲ失スル旨本田シ告知アリ。依テ午後八時同宅へ赴キ十一時帰ル。御発聲来ル三十日ト被仰出候事。

七月十五日 晴。

午後四時、伊地知正治殿ヲ訪フ。両三日前より、菊池某へ止宿セラルト、坂元へ注意スベキヲ示ス。

七月十六日 陰。

午後一時より三田育種場競馬会場に赴ク。宮内省其外、島津殿。松方氏等三十頭余出場日本乗アリ、依テ自馬並三浦・田中ノ雜種洋法ヲ乗ル。山島ノ乘法且ツ良馬ノ為メ、皆圧倒セラシシモノ、如シ。殊ニ自馬並三浦ノ馬ニ類スルモノナシ。随分愉快ヲ覚フ。央ニシテ精養軒ニ至ル。篠崎・山田・赤星ヲ饗応ス、後チ、松方・奈良原・久保等来会ス

七月十七日 晴。

休日。午前九時高田へ赴キ、閑散。六時帰ル。

七月十八日 陰。

町田殿叔母出京。藤次帰京、同行ナリ。因テ橋口殿・本田午後招待ス。

七月十九日 陰。

午前九時分小菅集治監へ小野田同行、獄舎製造場等点検。十一時三十分退去。帰路、千住警察署へ立寄り、十二時三十分帰邸。午後三時高島出京ニ付、同氏ヲ訪フ。他出ナリ。

七月廿日 晴。

午前十時内閣へ出頭。各省卿出会、会議所ニ於テ、有栖川左大臣分御巡行・供奉減少、情実口論ノ上仰出書ヲ渡サル。続テ書記官分供奉、被免ノ辞令書ヲ達ラル。警衛・巡查迄悉皆被免、其他陸軍卿・大藏卿奏任官等数名ナリ。午後四時、魯公使ヲ訪フ、他出ナリ。明日分箱根辺避暑ノ行アルニ依リ、過日来訪ニテ、暇乞ノ為メナリ。又、英領事某ヲ訪ヒ帰ル。

七月廿一日 晴。

千田へ男子出生、壮健ナリ。大阪表へ報道ス。

七月廿二日 晴。

午後千田ヲ訪ヒ、黒田清兼招待ニ赴ク。児玉来会緩話ス。過日与倉氏より再縁祝酒ノ為也。

七月廿三日 晴。

午後五時分野津鎮雄、一年回祭典挙行。親友同郷人等四十七、八名会事アリ、緩話十時帰ル。今夜両国花火ニテ家内参観ス。

七月廿四日 晴。

休日。午後五時高島旅宿へ会合ス。西郷・吉井・税所・大山等ナリ。

七月廿五日 晴。

十二時、西郷氏招待、麦飯饗応アリ。吉井・大山・中井・野津・高島・五代ナリ。

七月廿六日 晴。

午後六時、乗馬芝辺巡覽ス。

七月廿七日 晴。

宇都宮近傍大演習諸兵発途。米国へ来簡、文藏殿去十九日桑港出艦、帰朝に決シタリト。左スレハ、目今航海中ナラン。来月十五十六日着港スベシ。又、本日当地へモ書簡送ル。

七月廿八日 晴。

七月廿九日 陰。

出勤セズ

七月卅日 陰。

午前七時、御発聲・供奉ハ綿貫へ代理セシメ不参。午後三時小牧昌業ヲ訪ヒ、文藏帰朝後ノ事ヲ依頼ス。又、川村氏ヲ訪ヒ、十二時迄遊戯。石井邦猷ヲ招ク。

七月卅一日 陰。

午前九時高田邸へ赴ク。終日閑散。

八月一日 晴。

出勤セス。

八月二日 晴。

同断。

八月三日 陰或晴。

午後九時函館町物産会所へ至リ、安田定則ヲ訪ヒ、文蔵帰着後進退ヲ頼託ス。午後、橋口殿・本田氏ヲ訪ヒ帰ル。

八月四日 雨。

橋口殿盜難探偵ヲ林一成へ依頼ス。

八月五日 陰。

午前十時、参内。一昨日午後四時、皇女御分婉アラセラレシ拝賀ナリ。又、両御所消防隊宮内省へ附属セシヨリ司令四名該省採用ノ事ヲ談ス。

八月六日 晴。

十二時佐和某来訪、宴会ノ催シアリ。

八月七日 晴。

休日。演習ヨリ勇之進帰府・休暇中。止宿ス。

八月八日 晴。

本日夕出勤ス。米国飛脚舟十二日比ニ延引スレハナリ。午後、児玉利国、来訪・緩話。

八月九日 晴。

出勤セシニ皇女御命名式休暇故、退出。十二時、百二十一発祝砲施行。橋口殿、盜難元同家へ奉公セシ奥村鹿吉ニ嫌疑アリ。着手中ナリ。

八月十日 晴。

八月十一日〔記載欠〕

八月十二日 晴。

米国飛脚舟、入港日割故文藏殿帰朝ヲ待ツ。

八月十三日 晴。

午後三時分向島大倉喜八郎別荘ニ赴ク。高島へ別杯ナリ。琵琶ヲ弾ス、西氏ナリ。十時退去。

八月十四日 晴。

昨朝又橋口殿へ盜賊忍入、土蔵ヲ破リ、未得財、裸体ニテ逸走セリト本田分報知アリ。因テ今晚同家へ赴ク。

八月十五日 晴。

午後五時、文藏殿帰朝官宅へ突然来着。甚壯健欣躍ニ不堪、六ヶ年ノ星霜回顧スレバ一夢ニ帰シ。直右衛門殿・愛輔ノ佳報ヲ得、安心。即大阪兼三様へ電報ヲ打チ、祝杯ヲ汲ム。帰家セラル、余モ同道。富士見町分別レ、海江田信義約束ニ依リ、同氏ニテ談話。十時橋口殿へ赴キ、十二時退去。

八月十六日 晴。

直右衛門殿・愛輔書簡到達。午後五時分橋口殿祝筵ニ赴ク。黒田氏等來客、十二時三十分退散ス。奇談不少因ス。モ数刻ヲ移ス。午前八時、三条殿分被呼、事情質問詳悉陳述、夫分出勤。ハラ―銃送り來ル。

八月十七日 陰。

出勤セズ。文藏殿被參開拓使届書等指示ス。村田少ハラー銃彈三百發送ラル、。

八月十八日 晴。

午前八時、西郷殿ヲ訪フ。品川別邸ナリト又大山氏同断、未タ帰家ナシ。野津氏へ高島寓宿、過日向島別杯宴ニ発病ナルヨリ訪フ快方ナリ。依テ來ル廿四日帰阪ニ赴クト。夫より出勤、文藏來リ開拓使出仕之廉意見アリ、未タ拜命ナシ。

八月十九日 晴。

午前、三条公家扶福井某來庁。福岡県下、西末吉政体上奏書、去十六日持參。面謁ヲ請ヒ、且ツ上奏書拒絶セラレ、暴言ヲ吐キ連日參殿スト報知ス。即、取調ニ着手セシニ、咀呪家ノ如キモノニテ、別ニ氣・尊嚴アルモノデモナキ様子、注意方達ス。文藏との意見ノ趣ヲ小牧昌業へ依頼ニ及フ。

八月廿日 晴。

熱海温泉行不在中代理、且ツ届書等差出ス。土方大輔へモ返報ス。午後、文藏來訪。今晚有馬精一、琵琶会催シ招待。十二時帰ル。憲兵大佐等在客。

八月廿一日

休日。午前八時十五分汽車ニテ神奈川着。熱海温泉へ赴クトモ並びおば、殿・和三郎隨行セシム。炎熱道中、掛念ニテおば、殿ハ差留メシナレトモ承諾ナシ。不得止同行ス。九時二十分、神奈川少人力車ニテ出発。十一時四十分戸塚着、食事。午後一時同所出発。八時二十分、小田原駅片岡某所へ着宿ス。炎天如焼ナレトモ、南風ニテ稍涼氣アリ。夜陰ニ及ヒ、甚遅着ナリ。小田原ノ魚漁真黒魚、陸續差送り、旅宿ノ鮮魚空腹一層美味ヲ覚フ。食事不足

ニテ、更ニ鮮魚生ヲ命シ食ス。

八月廿二日 晴。

前日同断。午前六時二十分小田原發駕。九時三十分江ノ浦着、休息。十一時四十五分吉浜着、食事ス、鯛鱈ノ鮮魚美味夜前ノ如シ。午後一時同所發駕、四時二十分熱海今井大夫所へ着宿。吉浜ハ人力車ニ乗替ルノ処、道路破壊ナルヨリ統テ乗駕ス。本日ハ殊ニ涼風秋氣ヲ催シ、甚快爽ヲ覺フ。尤今井ノ離レ席ニテ都合宜シ。村田経芳在湯ニテ尽力ニ預リ、着スル。杏夫婦來訪、贈物アリ。世塵ヲ蟬脱セシカ如キ、夏季ハ浴客少シト雖トモ空屋ヲ見ス。山田參議未在湯ナリト。伊地知正治、別ノ芸妓ヲ携へ同断、之レ老耄ナラン。

八月廿三日 晴。

來ル廿六日、米國飛脚舟出港ニテ書簡ヲ東京へ任出ス。午後四時ハ村田同袖、玉突場へ赴キ、遊歩ス。

八月廿四日 晴。

午前バラ一銃射の場ヲ湯前権現ノ山内ニ見込。警察官へ宿主ヲ以テ届出テ差支ナキヲ聞届リ。午後村田ト競点命中可也洋酒並豚肉届ク。

八月廿五日 晴。

秩父某來訪。伊地知正治へ見舞ノ為メナリ伊地知ハ昨日帰京ニ赴カル。午後射の場二百ヤード遠近試験ス。命中最モ好シ。文藏殿ハ來簡到達。

八月廿六日 晴。

今朝ハ海水浴ヲ為ス。波濤ニ刺撃セラル。甚宜シ。昨夜、階下栃木県ノ浴客室へ盜賊忍入、荷物持出シ、其俵アリ。金錢ヲ取ルノミナルベシ。不二家へ盜難アリト、山田氏ナランカ。

八月廿七日 晴。

午前海水浴、午後射的。村田・山田・佐々木・村田太政官書記官ナリ。外ニ鍋島・山口両議官来ル。

八月廿八日 晴。午後微雨。

例ノ通射的、山田等出會、綿貫直定並小野田元熙等より書簡到達。異状ナシ。

八月廿九日 晴。

午後一時夕村田夫婦並家内同道、伊豆山温泉へ赴キ、江島屋へ入湯。流ハ甚好シ、舟ニテ遊獵ス。六時帰宿ス。文藏殿見舞ニ被參報知アリ。

八月卅日 晴。

午後一時ヨリ山田・村田等射的ヲナス。了テ玉突ニ赴キ、六時帰ル。尤、山田氏明日帰京セラルト。政府之都合アリ至急帰京スベキ旨、三条大臣ハ書簡到達。因テ明日帰京ノ手当ニ及フ。山田氏へ赴キ、離別且ツ右事件ヲ談ス。自然、開拓使事件世論喋々比節ノ事情ナランカ。三週間ノ賜暇閑靜ヲ得ル能ハス、失望ヲ極メタリ。宿屋諸払等、悉皆首尾ス。又遠州屋書類等依託ス。

八月卅一日 晴。午後三時過降雨。

午前六時四十五分、熱海出駕ス。村田其他離別。九時四十五分吉浜着、十二時江ノ浦着。食事シ、午後三時二十五分小田原中松屋專助所へ着宿ス。途中暑氣モ凌キ易ク、着後稀ナル降雨。冷氣相催シ、即、綿貫吉直並文藏とのへ電報ヲ打ツ。又村田依頼ノ電報同断。

九月一日 晴秋冷。

午前六時半小田原出發。八時三十分大磯着。馬車借切ル。同所ニテ馬次替、九時五十五分藤沢着、食事ス。午後二時神奈川着。三時十五分乗車、四時十五分新橋着。門番並ニ別当迎ニ出テ、帰宿。

九月二日 晴或雨。

午前綿貫呼喚、開拓使払下ケ事件各地報道等談話ス。午後大山氏ヲ訪フ、他出ナリ。

九月三日 晴。

午前大山氏ヲ訪ヒ、三条殿ヘ伺候、帰邸ス。本日帰京ノ御届、綿貫代理ヲ解ク。当春比より廟堂機密漏泄屢々論弁ノ事、愈發覺遺憾ナリ。

九月四日 晴。

出勤ナシ。

九月五日 晴。

午後四時より西郷氏來訪緩談。十一時帰ラル。

九月六日 晴。

帰京後、炎暑甚シ。午後川村氏ヲ訪フ、他出ナリ。

九月七日 晴。

午前内務省へ出頭。土方へ談合ス。午後四時川村氏へ赴キ、談話。六時帰ル。今夜、大迫・山本來訪。文藏殿、毎夜程同断。熱海より細工物到達ス。

九月八日 雨。

秋涼始テ催ス。諏訪へ永田云々示談ス。谷元・種田・小牧來訪。

九月九日 陰。

出勤セス。米国へ信書並為替三十九弗二十二錢、赤星へ頼託ス。十一時、千田訪。午後本田並文殿同断。

九月十日 雨。

午前七時伊藤氏ヲ訪ヒ、緩談ス。十一時西郷氏ニ至リ、午後四時三十分汽車ニテ帰ル。大山氏来会、同断。今晚
諏訪並柏木来訪。

九月十一日 雨。

休日。午後文蔵来訪。相生亭へ食事、同行。谷元・種田・小牧来訪。

九月十二日 晴。

午前ヨリ下痢数度、不快ヲ生シ、出勤スト雖トモ直ニ退出ス。午後、防火線会議ヲ府庁へ起ス、綿貫へ委託ス。
午後三時、西郷氏品川別邸へ臨時出會、参議等ナリ。食事了テ先キ退出ス。今夜千田貞暁へ別杯、招待ス。降雨アリ。

九月十三日 晴。

疲労ニテ出勤ナシ。

九月十四日

午前二時過シ暴風雨、九時過平和。本日、千田帰県。小川町本邸板塀損所アリ。

九月十五日 晴。

午前七時、西郷別邸品川へ赴ク。本邸帰宿アリト。

九月十六日 晴。

出勤セス。

九月十七日 晴。

病氣快気本日ハ出勤ス。午後、小牧来訪。五時西郷氏ヲ訪ヒ、警衛云々談ス。

九月十八日 晴。

休日。午前、村田・本田・橋口殿ヲ訪ヒ、同家へ今夜迄、緩話帰邸セシニ大迫氏来客来ル。廿四日熊本守城紀念会ヲ談セラル、。

九月十九日 晴。

午前、大山殿来訪。将校、物議並御用掛被免云々。憲兵警察ノコヲ談ス。文藏殿並本田家内来客。今夜横幕直好来リ。紀念会ノコヲ談ス。谷干城殿へ右事件ヲ通報ス。安田定則ハ来簡アリ。国事掛へ渡ス。

九月廿日 微雨。

午後、寺田某来リ、防火線會議云々ナリ。四時西郷氏ニ至リ、大山氏等同道。日吉山三王宮へ赴キ、宝納刀劔拝観ス。大久保一翁殿・福地・小室・今村等来会。定利ノ名劔アリ。帰路、西郷氏ニテ食事、九時帰ル。

九月廿一日 雨。

午前、川南源兵衛来訪。明日帰県スト。陸軍省御用掛被免シ。元警部二十名余ノ予算書ヲ西郷氏へ送ル。紀念会広告ヲ三橋へ委託ス。

九月廿二日 雨。

午後中井弘来ル。電信中央局六日中大阪高麗橋同局ノ電信官、私報帳簿三冊并洋書一冊紛失。去廿一日ノコナリト。之レ他ノ所為ニ非サルベシ。甚好機ヲ得タリ、探索ニ着手ス。効アレバ比回ノ謀略発顕スベシ。

九月廿三日 雨。

午前九時四十分、秋季祭參内。十一時過帰ル。伊藤へ面会。元警部採用云々等談ス。午後黒田氏へ来書、山田婦京、大凡奮発ノ報アリ。西郷ヲ訪フ、他出ナリ。大山ヲ訪ヒ談話ス。今夜黒田氏へ来簡、電信帳紛失云々。上野へ板垣・福地等集会ス。

九月廿四日 陰。

午前小牧来ル。西村云々ナリ、着手ス。電信帳紛失同断。

九月廿五日 微雨。

午前八時高田へ赴ク、将校集会アリ。午後三時、余ハ退出。四時半分精養軒へ赴キ、熊本守城紀念会。立食了テ八時退散ス。

九月廿六日 陰。

午前仁礼氏来ル。又、大迫同談。昨夜、或士官巡查関係ナリ。又、円城警察使同断。午後山下秀実来ル。又、宇都同断。暴風候地理局へ報ス。

九月廿七日 陰風。

板垣等会議情実ヲ伊三〔伊藤參議〕へ報道ス。山口電信分局帳簿一冊外、同日比郵送ノ上紛失端緒アリ分ルベシ。

九月廿九日 陰。

午前七時伊藤へ赴ク、他出ナリ。石井邦猷へ赴キ、旧警部集治監へ採用ヲ示談シ、内務省へ出頭。土方へモ談ス、綿貫立会。昨夜五十銭札贋造者兩名埼玉県へ護送取調上談合ス。了テ出庁。

九月卅日 陰。

午前九時伊藤來館、開拓使ヲ談ス。午後、西郷・大山へ赴ク、皆他出ナリ。橋口殿へ赴キ文藏殿・千田同道、富士見軒へ至リ食事。球戯ヲナス。

十月一日 晴。

午前、西郷・大山へ至リ出庁。十二時夕府庁ニ於テ、防火線路事件委員會議四時退散ス。贖札犯人供出機械等点検、精工ヲ尽シタリ。五百円余ノ贖札所持ス。印刷局長來庁点検アリ。

十月二日 晴。

午前九時、王子村制紙社ニ赴キ縦覽。食事了テ支部へ赴キ、午後三時帰館ス。藤島正健誘導、西郷菊次郎並文藏・荒川同行。道路泥濘馬車困難、因テ帰路日暮山夕上野ニ出テ帰ル。安田來訪。

十月三日 晴。

午後二時松方氏ヲ訪フ、留守ナリ、昨日帰京。又西郷氏ヲ訪フ、同断、帰ル。清浦奎吾並大山氏來訪午前古莊嘉門來訪、鹿兒島事情ヲ聞ク。

十月四日 晴。

永沼諫死云々書類内閣より廻送。午後二時より松方氏へ赴キ、四時過帰ル。西郷氏來客、開拓使事件廟儀ノ際大体ヲ失シ枝葉ニ渉ルノ恐レアルヨリ、黒田氏え談論。背セサル故、余面談云々。因テ七時同家へ赴キ、十二時過迄談論熟考スヘキト。

十月五日 晴。

午前西郷氏へ赴キ、昨夜ノ事件談シ、井上・伊藤へ同断。又、西郷氏へ帰り、同氏再ヒ黒田氏へ面談談ノ。午後四時黒田氏来訪、西郷並余ノ意見ニ同意スル決答。余、為国家謝ス。今夜西郷来訪快談数刻ニ及フ。

十月六日 快晴。

午前九時宮内省へ出頭。桂宮薨去御機嫌伺ナリ。明日彼ノ奸賊帰京スト、伊藤ヨリ報知。午後五時、西郷氏二赴ク、川村来会。岩倉殿、本日同舟帰京、今夜安田並柏木等来ル

十月七日 陰。

大印〔大隈重信カ〕帰京ノ報知アリ、粕駟へ着手ス。午後二時伊藤邸へ集会。七時、帰路魯国公使館へ招待餐応、十時退散。

十月八日 陰。

午前八時三十分、岩公へ伺候ス、愉快断言ス。又、魯国公使館へ夜前餐応ヲ参謝ス。十二時退出。綿貫・三橋ヲ喚、警察上親議ス。午後七時西郷氏へ招待、独国公使館書記へ別杯、公使等参会。野津・河島緩話十二時過帰ル。

十月九日 午前雷雨。

江口来ル、又巡查副長川崎同断、懇々告諭ス。大臣・参議、警衛・随行・微行セシム。三橋来ル。又、太田外二名御巡行先視察帰京。情実詳悉食事ス。

十月十日 快晴。

午前九時独逸国公使外一名来庁。囚獄巡視官宅へ誘引。休憩十一時退去。又、出庁ス。午後一時、岩倉殿へ赴ク。副〔島〕・板〔垣〕等団結、新聞紙屋云々ナリ。各地情実上陳見込断言ス。二時帰館。来週月曜日即十七日、右公使石川島監獄へ来観ヲ約ス。米国へ書簡仕出ス。文蔵・本田来客。

十月十一日 晴。

午前六時五十分出發、馬車ニテ保木間村へ八時五分到着。府知事埼玉県令白根出會ス。十一時、保木間村御通聲拜謁。直ニ乗車、御列外供奉。十二時千住着御、午後一時御發聲。二時四十分皇居着御、各省官吏奉迎供奉ノ面々、酒肴ヲ賜フ。川村氏共ニ伊藤殿へ面晤。即、過日来ノ廟議開會の由。午後九時三十分、黒田氏より戦端ノ報知アリ、注意スベシト。因テ直ニ参内。黒田・伊藤両氏へ面談。既ニ大隈退職ハ上裁アリシト雖トモ、司法・行政兩端ノ議論、未タ決着セスト。徹夜評議ノ事ヲ賛成シ、帰ル。稍快然タリ。

十月十二日 晴。

午前二時黒田氏ハ報知アリ。伊藤・西郷両氏、大隈邸へ被赴。帰途、掛念云々ナリ。即巡查副長川崎へ急報ス。又、松方氏よりも報知アリ。野津氏来庁ス。又、川島同断。今晚川島・森田・加藤来リ。勅諭云々ナリ。勅諭出ル。午後三時各警察使へ告諭。

十月十三日 陰。

午前八時、各屯所等巡查長召喚、非常ノ景況、人民不幸ニ陥ラザル様予防云々、懇敦告諭シ、勅諭ヲ示ス。大隈参議退職、太政官書記官矢野文雄等同断。表裏反復ノ輩黒白二刀両断。不日政府組織變更・廢官ノ筈ナリ。午前十時政府へ出頭、両大臣等へ面晤ス。右府ヨリ河野え内命アリ呼出シニ行、免送。

十月十四日 陰。

午前九時松田知事来庁、防火線路協議アリ。十時宮内省へ呼ハル、大臣・参議警衛注意スベキ御沙汰、山岡ヨリ達セラル。御受、且ツ事情上陳ス。帰路、青山御所へ還幸、御伺ニ参内ス。勅諭ノ世評探聞ヲ右府・伊藤・松方両氏へ報道ス。午後四時ヨリ散歩。風雅ヲ授リ大山氏へ立寄ル。吉井氏出會、今晚食事ノ上九時帰ル。

十月十五日 雨。

十二時退出。谷本道元来ル、新聞云々ナリ。三時十五分、文藏殿同袖、横浜へ赴キ独逸領事ベヤー氏帰国離別ノ為ナリ。二十番グランドホテルへ止着、他出ナリ。名刺残シ置キ、五時四十五分ノ汽車ニテ帰京、中途洋食事シ帰ル。本日ヨリ、両日間福地等新富坐大演説休会トナル。目的外レトナリシナラン。過十二日明治会堂演説中止セシム。中立政党政談停止ス。攻撃ヲ始ル心算此方モ目的外レトナルナリ、来ル十七日独逸公使石川島へ来覽ノ筈ナレトモ祭日休業故、後日ヲ期シタリ問合ス。

十月十六日 晴。

午前、高崎正風至ル。九時三十分高田へ赴ク。イチゴ植付並邸内遊猟ス。文藏殿並荒川已次来ル。文藏殿自転車ニテ、予乗馬、音羽町へ廻リ帰宿。十一時三十分黒田氏今来簡。直ニ同邸へ参会ス。参議卿等ナリ。政府組織云々徹夜ニ及フ。今夜雨。

十月十七日 雨。

午前八時黒田氏ヨリ帰館ス。新嘗祭遅刻セシヨリ御用差支、参内シカタキヲ宿直へ通シ式部寮へ届出サシム。西郷・山県両氏同馬車ニテ同シク帰途、赤羽橋側ニテ馬車、人力車へ衝突。馬車転倒、両氏落車・怪我セラレタリ。西郷氏ハ微傷・山県氏ハ治療ノ上帰邸セラレタリト。

十月十八日 晴。

午後三時西郷氏へ至ル、出勤セラレタリト。山県氏モ同断、負傷快方ナリト面会セス。四時半ヨリ上野精養軒へ綿貫同馬車ニテ赴ク。仏人グロース刑法講義終了セリ因テ、ボアソナード招待、局長並主任饗応、盛宴。予、祝文ヲ演ブ両氏満足セリ。

十月十九日 陰。

午前八時岩公へ赴キ、過日内命河野云々上申シ、西郷氏ヲ訪フ。臥床ナリ、負傷僅少ニテ面晤。十時過出勤ス。大山氏へ遊獵鑑札送附ス。予ハ昨日受取ル。午後四時、岸良利助・柳田來訪、警衛一件ナリ。

十月廿日 雨。

午前田辺來ル、警察向協議云々ナリ。河野農商務卿免官、黒田氏ヨリ通報アリ。松方氏へ御輔討議云々、新聞紙ニアルヲ問フ、空説ナリ。

十月廿一日 陰。

政府更迭アリ。午後局長会議川村氏ヲ訪フ、他出ナリ。

十月廿二日 晴。

十二時退出。大阪辺為替券相届キ、午後橋口殿へ赴キ、直ニおみわ様へ渡ス。岸良兼良へ赴キ、大山謙検事希望ヲ依頼ス。又、兼三様在勤云々質問セシニ、判事へ御転勤依頼、大阪在勤ナリト。午前大山氏ヲ訪フ、田中在客。大阪へ電報アリ。

十月廿三日 晴。

午前九時児玉來ル。十一時高田邸へ赴キ、遊獵雉子一羽ヲ獲タリ。酒井別荘辺、遊獵ス。大阪ヨリ電報アリ。十月廿四日 陰。

午前十一時、新橋停車場へ出ツ。英国皇孫、着京。延遠館へ供奉、午後一時帰邸ス。開拓使事件、黒田氏ヨリ來翰アリ。小牧ヨリ探偵書廻送。今夜本田家内並文藏殿來客。雉子割烹馳走ス。町田氏御叔母様、先日ヨリ御來泊。又、今晚本田両子同断。

十月廿五日 晴。

午前八時西郷氏ヲ訪フ、未夕臥床ナリ、黒田氏來翰云々示談ス。十時出勤ス。午後、指宿近春來訪、緩話。今夜米國へ郵便ヲ送ル。

十月廿六日 陰。

午後三時川村氏へ赴ク、開拓使事件ナリ。五時、帰路橋口殿へ赴ク。明日文藏殿、四国地方巡回出發、別盃ノ為メナリ。

十月廿七日 晴。

午前九時黒田氏へ赴ク、他出ナリ。松方氏へ赴ク、十一時出勤ス。午後八時三十分ヨリ工部大学校ニ赴キ、東伏見宮・英國兩皇孫招待、内外賓夜会アリ。例ノ盛宴、十二時退去ス。自由党本日井ブ村ニテ会議、不敬ノ言語アリ、午後二時文藏殿出發セラレシト。

十月廿八日 晴。

午前九時黒田氏へ赴キ、開拓使事件等緩話、稍反対ナレドモ随分了解ノ氣味アリ。尚、熟考ヲ請ヒ、十一時出勤ス。午後二時、吹上ニ於小笠原流騎射ヲ英兩皇孫展覽、四時了ル。立食了リ、余ハ直ニ引取。川村氏ニ至ル、留守ナリ。西郷氏ニ赴ク、途中ニテ出會、開拓使事件示談ノ上別レ、帰館ス。

十月廿九日 陰雨。

英兩皇孫帰艦。午前八時、別仕立ノ汽車ニテ出發、離別ス。岩倉殿出會、示談ノ事モアリタリ。直ニ帰宿、又、川村氏ニ至ル、他出ナリ。因テ出勤ス。十二時退出、終日揮毫。今夜、末広直方來ル。今夜、米國今書簡到達ス。

十月卅日 晴。

終日揮毫。午前、田尻稻次郎来り。文蔵殿身上云々示談アリ。宮内盛高来り、事情ヲ報知ス。

十月卅一日 晴。

午後三時ヨリ、西郷氏ニ至ル。未平癒セラレズ臥床。品川・大山・前田出会、大山氏同道ニテ同邸へ赴ク。野州人矢板某・安城某来客、食事アリ。此兩名、那子野原開墾周旋家ナリ、予モ二百町程願託置ケリ、十時帰ル。

十一月一日 晴。

英国産蕪麦並ニ高野椿ヲ大山氏ハ譲受ル。午前、益満来訪。午後四時、山田卿ヲ訪フ。憲兵条例改正云々内議ス。野村神奈川県令来会。六時橋口殿へ至ル、本田家内来会ス。

十一月二日 晴。

大山氏ハ新聞紙寛大云々通報アリ、返簡ニ及フ。午後園田来ル。午前、田辺警保局長来庁。上村慶介採用内決云々示談ス。宇都ヨリ報知アリ。指宿近春、大藏省希望云々ハ倉守人氏頼越ス。

十一月三日 晴。

天長節、午前十時三十分参内、酒餅下賜、十二時退散ス。指宿へ与倉氏ノ返簡ヲ送附ス。午後九時ヨリ外務省内官舎ニ於テ、井上、内外官民招待夜会アリテ赴ク。花見舞樂盛会十二時退去ス。鎗屋町へ自由党本部ト掲載表札ヲ出セシト、谷元ヨリ承知。實際調ヲ綿貫へ談ス。

十一月四日 陰。

自由党表札ハ、集会条例第二条並第三条ニ抵触スルニ詮議ス。今朝鎗屋町ヲ探知セシニ果シテ掲載セリト。午前、田辺並ニ園田来庁、上村希望内決ニヨリ辞表スベキヲ本田へ通報ス。

十一月五日 雨。

午前十一時、内務省へ出頭。自由党表札、法律抵触撤却スベキヲ山田氏へ談ス、同意ナリ、因テ司法卿へ協議アリタキヲ議シ、帰邸ス。午後、田辺来館、山田氏ノ命ニテ司法卿へ協議セシニ無論犯則ナルヨリ判事検事へ含置クベキヲ返答アリシト。直ニ報知ス。因テ綿貫ヲ呼び、警察使へ撤却手段ヲ相違スヘキヲ議ス、明日ハ、休日故明後日撤却ノ事ニ取計ル筈、山田氏へ再ヒ田辺ノ報知ニ依リ着手スベキヲ報道ス。今晚、宇都来ル。侵入スベカラサルヲ論ス。表札掲載ノ廉ハ彼等拙策ニ出タリ、地方部モ随テ陽ニ連合スル能ハス。

十一月六日 晴。

午前十時永山武四郎ヲ訪ヒ、開拓使事件、黒田氏へ返答ノ趣等概略談話ニ及ヒ、注意アリタキヲ具陳ス。又、指宿近春ヲ訪フ、他出ナリ、家内へ面晤帰ル。又、大円寺墓參十二時五十分帰邸ス。田辺・園田ヨリ報道書アリ。

十一月七日 晴。

午前綿貫ハ来リ、自由党表札明日着手スベキ云々。江夏喜藏来庁、同事件ヲ質問ス。午後三時ヨリ違警犯罪改正ノ事、各局長会議。四時了ル。山田氏へ京撰両府警察署長交換スルヲ廻送ス。赤星へ為替金ヲ依頼ス。

十一月八日 陰。

午前、自由党中央本部ヲ鎗屋町ニ掲載セシヲ取除カセ、該警察署ヨ告発。夫々検事へ規則等相副廻送ス。山田氏へ報道ス。福岡県警部秋永菊二郎来庁、事情ヲ遂ス。米国へ三ヶ月分爲替券並年末ノ音信物品、直右衛門殿・愛輔へ送ル。午後六時、前田正名招キニ赴ク。例ノ琵琶引アリ。税所長藏・品川弥二郎等来会。尤来ル十一日出発洋行別杯ノ為メナラン。

十一月九日 陰。

午前九時大山氏ヲ訪フ、過日馬車ヨリ落車足部負傷臥床ナリ。落車流行、西郷氏モ未夕癒セス。

十一月十日 晴。

昨午後、自由党会議ノ報告アリ。稍思考違ヒナシ。

十一月十一日 陰。

午後一時ヨリ三時迄警察使會議。

十一月十二日 晴。

十二時退出。午後二時向岡射的試験丸中点命中セリ。

十一月十三日 晴。

午前九時向岡射的の会出場。午後五時了ル、快晴無風射客ハ不多賞品授与、夜二入ル。

十月十四日 陰。

午前、臨時各局長會議ヲ起ス。午後二時外務省へ出会ス。人力車規則協議ナリ。外国人へ關係アレバナリ。予、意見書通異見ナシ、四時退出ス。松田並神奈川県令・警保局長ナリ。

十一月十五日 雨。

午前十一時、魯国監獄全権某、各地方巡視当庁来臨、監獄一覽ノ筈ナレドモ都合アリ、延引セリ。十二時十三分同国公使ヨリ午餐招待。参議等会食ス。午後五時谷干城殿孫子出生後宴会招待、家内同行、例ノ盛宴佐々木・中村等出会ス。

十一月十六日 晴。

午前九時過、魯国監獄主任者某外領事等四名来館ス。林二局長駒留ノ兩名誘導、鍛冶橋へ赴キ又石川島へ同断。

十二時退散セリト。海軍士官同国人追跡、来会ノ由。午後二時、皇居御苑觀菊、陛下皇后出御。内外国貴顕概不三百名男女拜謁・拝覧、四時過退散ス。立食洋食ヲ下賜セラル。家内同行ス。米国ヨリ書信来着ス。一昨十四日、税所元五郎殿、帰県ニ付、御伯母様へ金二十五円・大久保おえひ殿橋口おしね殿へ同五円を歳暮ノ祝儀進送ス。

十一月十七日 晴。

山口・鹿児島県両県親睦会ヲ開杯、箱崎町会会社ニテ来ル廿三日挙行。安田・小牧担当ナリト、甚失策ナルニ依リ、本日、小牧へ否問合タリ。

十一月十八日 晴。

秋季神祭ヲ為ス、十二時退出、親族打寄食事ヲ為ス。午後、小牧来館、親睦会云々並北海道処分上ナリ。尚、集会ハ猶予可然ヲ協議ス。三橋来リ、酒税歎願書処分意見警保局へ談論、互ニ異見アリ。

十一月十九日 晴午後雨。

午前八時三十分、海軍兵学校卒業証書授与式出場。九時御幸二百余名拝受。十時三十分比式了ル、階上ニテ立食アリ。主上ニハ、十時四十分還幸。午後二時戸山競馬ニ赴ク。帰路グロース昨夜病死ノ報告ヲ聞ク。直ニ綿貫ヲ訪ヒ、会葬式ヲ談シ、帰邸食事シ、速ニグロース氏ノ邸ヲ訪、又、執事・下婢迎へテ同氏骸□ニ導ク。一拝、惨然タリ尋テボアソナード氏ノ邸ニ至リ、葬事ヲ談ス。遺言モアリ青山埋葬地警視庁ノ墓地ニ葬ルニ決ス。一切、余、担当セシメテ請ヒ、万事示談。明後廿一日午後三時三十分葬式施行ノ事、定ム。同氏ハ六年間警視ニ従事、過九日解期本月廿六、七日比帰国ニ赴クニ際シ死没、可憐・遺憾ナカラン乎。

十一月廿日 雨午後晴。

休日。午前九時出勤。各局長会議グロース葬式担当且ツ会葬式等決シ、十一時三十分退去、今晚橋口殿ニ至ル。

十一月廿一日 晴。

午後三時三十分故グロース会葬式ニ赴ク。団兵一中隊巡查三百名余儀仗、青山警視庁埋葬地へ埋葬ス。仏人ボアソナード祭主トナリ、死者二代リ演説ス。了テ、余、祭文ヲ朗読ス。式了テ内外国人退散、随テ余等同断。

十一月廿二日 晴。

午前、ボアソナード来庁。葬式盛典待遇。厚誼ヲ謝ス。感銘ノ様子アリ。

十一月廿三日 晴。

午前九時、高田へ赴キ、近傍遊獵雉子一羽捕獲ス。家内並勇之進、内生徒村田父子妻ニモ立寄、六時帰宿新嘗祭不参。

十一月廿四日 陰。

午後五時三十分ボアソナード氏招待ニ赴ク。グロース氏旧友大山巖・川路ノ養子其外綿貫・佐和等ナリ。主人グロース氏ヲ弔フノ演説了テ大山氏同断愁然タリ。

十一月廿五日 陰風。

午前河島醇来庁。来ル廿七日鹿兒島県人親睦会規則等取調ノ為メ水交社出場スベキヲ促ス。概略意見ヲ述ベ置、英国副領事ホジス氏来庁、同国人小笠原島ヨリ四名一昨日来着・上陸。在所分ラサルヨリ索搜ヲ依頼セラル、即着手ス。午後二時三十分内務卿へ面談、酒造税減請願書、植木処分上不当ヲ具陳ス。尤、過日来警保局、協議異見ヨリ前件ニ及フ。充分意見吐露。一応新聞紙掲載ヨリ着手ニ決ス。警察使会議出場セズ。内務省へ退出、西郷氏ヲ訪ヒ、同県人親睦会ノ一ヲ談ス。種田誠一在客、上村敬介招待ニ赴ク。一昨日内務省属官拜命、祝筵ノ心組ナルベシ。

十一月廿六日 晴。

午前九時岩公へ至ル。開拓使処分上質問アリ。黒田氏書簡答詞之趣等逐一具陳ス。並ニ各地方警察署長権限、且ツ銀行株券印紙等同断。午後二時、川村氏ヲ訪フ、鹿兒島県令渡辺在客。情実詳悉当地ノ説ニ齟齬セリ。稍、安心ナリ。明日集会ノ一主人へ示談ス。余ハ関係ナキヲ然トス。因テ能ク依頼シ置タリ。

十一月廿七日 晴休日。

午後、黒田嘉納殿ヲ訪ヒ、又、野津氏同断、各他出ナリ。帰路、橋口殿ニ至リ帰ル。

十一月廿八日 晴。

午後退出ヨリ、通町ニテ書冊ヲ購求ス

十一月廿九日 雨。

書籍数部ヲ警視庁へ借覽ス。

十一月卅日 晴。

米国より書簡到達ス。午後七時大木殿、晚餐招待。参議並各省輔等ナリ。帰路西郷氏ニ立寄、十二時半帰宿。開拓使事件ナリ。

十二月一日 陰。

午前九時、勝間田来館、茨城県人数探索云々ナリ。午後五時井上馨官宅へ集会。西郷・大山・松方・品川・野村ナリ。食事了テ、開拓使事件ニ及フ。甚難儀数刻ヲ移ス。十二時三十分皆退散。文蔵殿、午前帰京来訪。

十二月二日 陰。

午前五時橘口殿へ赴ク。千田氏ニ立寄り、本田・千田同袖ス。千田ハ昨日広島へ出京、文藏殿同艦ナリト。大阪尊兄様直右衛様等詳悉セリ。

十二月三日 陰。

休日、庁員・判任官已上・憲兵同様熊本守城並鹿兒島米藏守戦人員七十名余紀念会、中村楼ニ集会。予モ誘引ニ依リ午後三時職員同道出場、演説等アリ盛会当時感慨ヲ起ス。五時、予ハ退去ス。児玉国利親父快氣祝宴ノ招待ヲ受ケ、又、南ニ転シ、同氏へ赴ク。是又、盛宴、面ニシテ退去。

十二月四日 雨。

午前十時、吹上禁苑へ赴ク。本日、外国公使並參議等射の企アリ。雨天遷延ノ報ヲ聞キ、空ク帰ル。

十二月五日 陰。

午前十一時吹上へ赴ク。魯・独・澳公使等午餐。山里御茶屋一時ヨリ射的命中不宜。六時帰館。独公使・川村・山田・村田・賞品ヲ取ル。立伏射並ニ短銃。

十二月六日 晴。

本日ヨリ、地方官、内務省ニ於テ諮問会開議。

十二月七日 晴。

大阪府少書記官香坂某同府警部長兼勤ノ見込アルト聞キ意見ヲ山田氏へ通報ス。

十二月八日 晴。

午後五時半ヨリ、故グロース氏追善会ヲ催ス。旧友ボアソナード氏並バラード氏・警視各局長等十六名ヲ招待ス。

十二月九日 陰。

午後一時ヨリ警察使會議。四時半野津氏へ會合、鹿児島県人親睦會事件ナリ。一時半帰ル。西郷氏並ニ大尉已上。

十二月十日 晴。

午前十二時朝鮮□信使ヲ延遼館ニ於テ饗応。大臣・參議等ナリ。大和舞樂・支那樂ヲ催セラル。夫人招待アルニヨリ、ともニモ參觀。予並西郷氏同道。早く退去シ、税所篤殿、米華堂ニテ刀劍會催サレ、同所へ赴ク。來国行・困俊・久国ノ名刀アリ。黒田清兼氏招待アレタレトモ、先約ニ付不參。同氏大和神社宮司拜命ノ為メナラン。

十二月十一日 陰休日。

午前九時、渡辺鹿児島県令來訪。十時高田邸へ赴ク、千田氏並ニ文藏との同道。近傍遊狐雉子一羽モ出ズ、鶉割烹馳走ス。

十二月十二日

昨日、水交社ニテ鹿児島集會主義會議アリ、議決セズ。海・陸軍・警察官等各三名委員相立協議ニ決シ、解散ノ由。山下等ヨリ承知ス。

十二月十三日〔記載なし〕

十二月十四日 陰。

米國直殿ヨリ信書到達ス。愛輔返信ナシ。

十二月十五日 陰。

午後四時、山田・大山兩氏ヲ訪フ、他出ナリ。

十二月十六日 陰。

午前十一時出省。山田氏ニ京坂警察長云々等談ス。午後四時、河島醇並渡辺千秋ヲ訪フ各留守ナリ。
十二月十七日 雪。

午前九時、田辺良成並徳久來訪。午後一時より擊劍へ出場、五時了ル。越前春嶽公令息並坂元・土屋等來觀。午後六時、吹上禁苑田舎御茶屋へ出火。

十二月十八日 晴。

休日。午前十時乗馬、与倉守人氏ヲ訪ヒ、指宿並二本田身上ヲ依頼ス。帰路、児玉利國へ立寄、十二時三十分帰着。積雪、佳景ヲ極ム。午後三時千田氏へ赴ク、他出ナリ。橋口殿へ至リ、千田氏來會。同氏帰ラレ、本田氏同断、今夜迄緩話。

十二月十九日 陰。

午前九時西郷氏ヲ訪ヒ、十一時出勤。

十二月廿日 陰。

午後五時千田氏へ赴ク。本田・橋口同道ス。尤明日出發、帰県ノ宴会ナリ。仁礼氏等來會。

十二月廿一日 陰。

本日、内閣出頭スベキノ処、明日延引セリ。広島県警部長取調云々、千田公依頼ニ依リ、岩倉殿會議席へ書簡為持セシニ退出ナリト。本日出艦故残念ナリ。

十二月廿二日 陰。

午前十時、内閣へ出頭。三条・岩倉両公事事情質問アリ縷陳ス。十一時出勤ス、午後四時半ヨリ岩公へ披招、士族授産方法内示セラル。尤、來十五年七月迄七カ年間金八十万円ツ、思召ヲ以テ下賜セラルト。昨日、地方官會

議及ヒ、本人ノ建白書類等下附セラレ、食事了テ退去ス。七時過ナリ。

十二月廿三日 雪雨。

午後一時警察使会議。

十二月廿四日 晴。

米國郵舟出港、信書ヲ出ス。十二時退出ス。

十二月廿五日 陰。

休日。午後二時三十分、汽車ニテ品川西郷氏別邸へ赴ク、軍人將校会ナリ。大山氏等其他海軍仁礼・松村・井上等来会。吉見某琵琶彈アリ、社会ナリ。午後九時、汽車ニテ大山氏等同車帰ル。寒氣最烈シ、府庁両庁集会ヲ紅葉館ニ催シアリシヲ不得止、辞セリ。魯國ヨリ帰朝ノ山本少佐モ来会。

十二月廿六日 陰。

午前、千田貞暎へ広島県警部長依頼ノ金井充豊差支ナキヲ電報ス。午後又返事アリ、午後七時高知県令渡辺来訪。諸県情実等詳悉セリ。

十二月廿七日 陰。

兼三様、年俸三千円宣下御達有リシ由、岸良兼養ヨリ内示アリ。恐慶ナリ、大坂へ右祝詞年末併セテ書簡進呈ス。又、橋口殿へ報ス。

十二月廿八日 陰。

御用仕廻。午前、銀行株券・諸会社金券偽造・増発・予防法建言書一冊ヲ松方大蔵卿へ進呈ス。区内違警罪裁判所上申之廉運ハス、參議院〔ママ〕長へ電報ヲ打ツト雖トモ、未タ分ラズ。因テ一月一日ヨリ犯罪者ハ取調ノ上、

放還スベキヲ二局長ヘ口達ス。

十二月廿九日 晴。

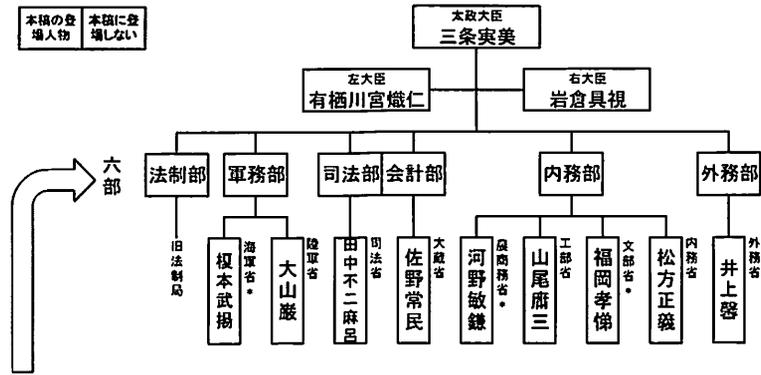
綿貫吉直、本日分熱海温泉ヘ赴ク。三十日間賜暇ノ事。

十二月卅日 晴。

午前九時より高田ヘ赴キ、江口村辺遊獵雉子ニ羽打捕シ。午後三時別邸ヘ帰り食事ス。空腹最モ渋味ヲ覚フ。今晚、益満来訪、緩話。

十二月卅一日 晴。

午後一時ヨリ、大円寺墓參。帰途、麻布三ノ橋町田氏おば様ヲ伺ヒ、又、田中綱常氏ヲ訪ヒ帰ル。快晴好天氣、此冬未タ大災希ニシテ強冷少ナク、先ツ平穩人民ノ至幸ナリ。此后ノ警戒、又、嚴ニスベシ。今晚、文藏殿来訪、緩話。



参議は複数で六部を担当している。()内は出身藩; 担当する部

- ・大隈重信 (佐: 外・会)
- ・伊藤博文 (長: 内・会)
- ・山田顕義 (長: 司・法)
- ・寺島宗則 (薩: 会・司)
- ・西郷従道 (薩: 内・軍)
- ・井上馨 (長: 外) 兼外務卿
- ・大木喬任 (佐: 法) 兼元老院議長
- ・黒田清隆 (薩: 内) 兼開拓使長官
- ・山県有朋 (長: 軍) 兼参謀本部長
- ・川村純義 (薩: 外・会) 四月七日より海軍卿・参議退任*

- *四月七日に右の改造が行われた。
- ① 榎本は宮内省御用掛に異動。
 - ② 川村は海軍卿専任。
 - ③ 河野は文部卿より農商務卿に異動。
 - ④ 福岡は元老院議員より異動。

図2 明治十四年十月二十日までの政府組織 (太政官六部制)

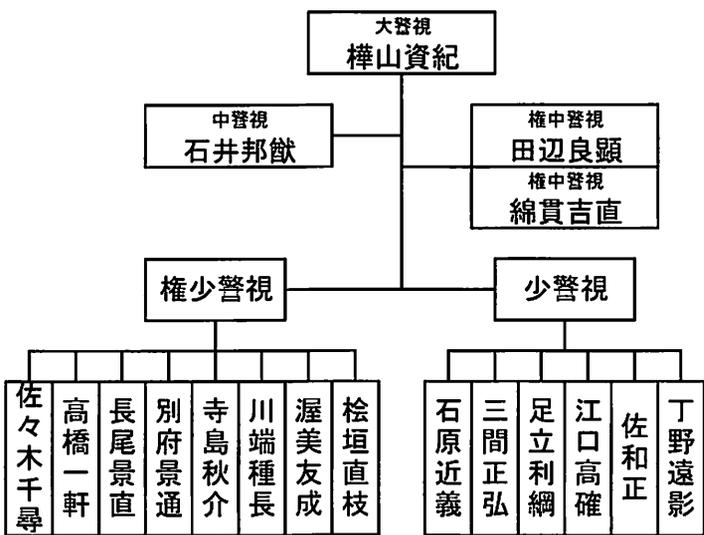


図3 明治十四年一月初旬の警察幹部 (内務省警視局)